



No.850 令和4年(2022)1月17日(月) 2022-3号

発行責任者:院長 澤田勝寛

isonare@ka2.so-net.ne.jp

◆コロナ関係

日本で最初に新型コロナウイルスに感染した患者が見つかったのが、ちょうど2年前の2020年1月16日でした。当時厚労省は「患者と一緒に生活するなどの濃厚接触があった場合に感染する可能性は否定できないが、感染拡大のリスクは低い」と記者会見で述べていました。WHOも同様の見解で、テドロス委員長も人人感染はしないとか、パンデミックにはならないなど、ずっと中国擁護の発言に終始していました。

2年経った今、ウイルスは変異を繰り返し、オミクロンが猛威をふるい世界中で爆発的に増えています。感染者数は世界で3億人を越え 25人に1人が感染したことになります。日本も180万を超え16日の感染者数は2万人を越えました。

1月17日は阪神淡路大震災から27年目となります。70年の人生で2回も大きな災害に直面するとは、、、ある意味貴重な経験をする機会を得たと前向きにとらえることができるようになりました。

オミクロンは重症化しないといえども感染者の増加に伴い濃厚接触者が増え、エッセンシャルワーカー不足になっています。国は、濃厚接触者の隔離期間を14日から10日に短縮することを決めました。職種によっては1週間に短縮することも検討されています。

◆阪神・淡路大震災から27年

1月17日(月)に、阪神・淡路大震災からちょうど27年を迎えます。「個人は3年で忘れ、組織は30年で途絶え、地域は60年で忘れる。歴史的な事象も300年で社会から消え、1200年経てば誰も知らなくなる」(畑村洋太郎)といわれるとおり、人も組織も地域も忘れてしまいます。

平成7年1月17日午前5時46分、阪神淡路大震災が発生しました。淡路島の北淡町を震源地とする直下型のマグニチュード7.3の大地震でした。

死者6443人、負傷者4.3万人、倒損壊家屋25万棟以上。多数の人命が失われ、多くの家屋が壊れ燃えてしまいました。家族を失った人、危機一髪で難を逃れた人、怪我をした人、心に大きな傷を負った人。程度は千差万別ですが、一人一人にとってはそれぞれが大惨事でした。

当日、病院には250人の負傷者が運び込まれ、22人が亡くなりました。電気ガス水道が途絶え、限られた人員、医療機材で、自然発生的にトリアージが行われていました。看護師寮から着の身着のまま応援に駆けつけてくれた看護学生もいました。泣きながら心臓マッサージをしている学生の姿が目には焼き付いています。

病院は倒産の危機に直面し、私自身も九死に一生を得るという経験をしました。27年が経ち、当時の様子を知っている職員は少なくなりました。折に触れて、地震の話をするようにはしていますが、風化は避けられません。私にとっては人生の転機ともいえる大きな節目であり、多くのことを学びました。毎年1月17日がくるたびに振り返り、後世に伝えていかなければと思っています。



病院横の若宮商店街の当時の様子
商店街はほぼ全滅でした。



病院裏の民家木造住宅はほぼ全壊でした

◆今週の院長予定

1月17日	月	8:00運営会議、9:00~12:00救急担当、17:30医局会		
1月18日	火	9:00外来、14:00手術、18:30神戸大学外科学関連施設会議(リモート)		
1月19日	水	松江		
1月20日	木	9:00来客、11:00~16:00日本二分脊椎水頭症研究振興財団内閣府調査、17:30永年勤続表彰		
1月21日	金	9:00外来、14:00手術、16:00コロナ対策会議、17:00経営改善会議		
1月22日	土	9:45新須磨クリニックで健診業務、14:00介護の家訪問診療(ワクチン接種)		